

世田谷一家殺害 生きているうち真相を 母の心情、朗読劇で /東京
毎日新聞 2023/12/17 地方版 有料記事 530 文字



劇終盤、会場のスクリーンには節子さんが孫のいなちゃんや礼ちゃんに寄り添う写真が映し出された＝世田谷区で

2000年12月に世田谷区の会社員、宮沢みきおさん（当時44歳）一家4人が自宅で殺害された事件は30日で、未解決のまま発生から23年を迎える。4人の命日を前に、母節子さん（92）の心情を描いた朗読劇が16日、同区内で上演され、地元住民ら約150人が遺族に思いをはせた。

朗読劇は「午前0時のカレンダー 残されたDNAへの思い」と題され、犯人逮捕を待ちわびカレンダーの日付に斜線を引き続ける節子さんの苦悩の日々を伝えている。成城署長として事件捜査に携わり、殺人事件被害者遺族の会「宙（そら）の会」特別参与の土田猛さん（76）が企画し、劇作家の高橋いさをさんが脚本にした。

Advertisement

劇終盤にはみきおさんの長女いなちゃん（当時8歳）と長男礼ちゃん（同6歳）の誕生を喜び、2人に寄り添う節子さんの写真も映し出された。

節子さんは観劇後、「早く犯人が捕まって、私が生きているうちに真相を知りたい」とコメントを出した。

現場となった自宅には犯人のDNA型や指紋が残されており、土田さんは「残された遺族の思いに応えるためにも、皆さんでできることを一緒に考えてほしい」とDNA捜査の進展や法整備を訴えた。情報提供は成城署捜査本部（03・3482・3829）へ。【岩崎歩】